

ハクサイの栽培法

2011/10/10

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店
※一部又は全部の引用を禁止いたします

タネまき

適期は各地で異なるが、目安としては、平均気温が15ccになる時期の40～50日前頃である。(近畿地区で8月中/下旬～9月上旬 九州地区で8月下旬～9月中/下旬) 白菜の場合はタネまきの時期をずらしての収穫調整は不可能で、同時にまいて、品種の早晩生で調整することが必要である。栽植密度は早生種で60cmX35cm中生種で60cmX40cm、晩生種で65cmX40cmが標準で1ヶ所5～6粒の点まきとする。

施肥※

1㎡あたり成分量で窒素20～25g、リン酸は15～20g、カリ18～28gで元肥中心の施用がよく窒素、カリは60%、リン酸全量と堆肥接g、苦土石灰100～150gを元肥として全面に施す。残量の窒素、カリは結球始めまでに2～3回に分けて追肥とする。

間引き

本葉5～6枚までに2～3回間引きし、1本立てとする。また、結球を始めるために除草をかねた中耕、土寄せを適宜行ない土中の通気性を向上させ、根の発育を促し、養水分の吸収を助けてやる。

収穫

収穫適期は日数と球のしまり具合などで決めるが、ある程度結球したものから順次収穫をし、遅くならないよう注意する。(上記の秋蒔き適作型で早生系で種まき後2ヶ月、晩生系で約3ヶ月で収穫期に達する。)

※肥料計算

8:8:8の肥料で計算すると元肥として125～150g/㎡、過リン酸石灰60g/㎡が必要。追肥は同じく8:8:8を150g/㎡程度必要となる。

